

第 25 回日本小児泌尿器科学会総会・ 学術集会および ICCS 2016 報告

河内 明宏

第 25 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集會会長
International Children's Continence Society 2016 会長
滋賀医科大学教授 (泌尿器科)

第 25 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集會および国際小児尿禁制学会 (International Children's Continence Society: ICCS 2016) を 2016 年 6 月 28 日 (火) ～7 月 2 日 (土) にホテルグランヴィア京都で開催いたしました。日本小児泌尿器科学会は、故 大田黒和生先生により名古屋において第 1 回総会が行われて以来、4 半世紀が経過しました。その節目の総会・学術集會を ICCS とのジョイントミーティングという形で行わせていただきました。ICCS は小児の下部尿路機能障害や排便障害などに特化した学会で、この領域では世界で最も権威があり、日本で開催されるのは今回が初めてです。さらに 7 月 3 日 (日) には、第 27 回日本夜尿症学会学術集會が金子一成関西医科大学小児科学講座教授を会長として開催され、3 学会の共催として小児の下部尿路機能、排便障害を中心とした企画を多数行いました。なお、ICCS 2016 は金子教授と私が共同で会長を務めました。

第 25 回日本小児泌尿器科学会学術集會は学会賞候補演題 13 題、一般演題 157 題の応募をいただき、参加者は 377 名でした。今回のテーマは「子どもたちに笑顔を、家族に安心を一さらなる QOL の向上を目指して」としました。小児期の疾患は本人の QOL を低下させるのみでなく家族の QOL にも影響します。夜尿症や尿失禁は日本全国に 80 万人以上の患者さんがいると推測されており、この QOL を低下させる疾患の代表で



学会会場風景

す。また、手術においてはできるだけ小さな傷で、子供たちの美容的な QOL を低下させない努力が積極的に行われています。これらの関係のセッションとして特別講演、シンポジウム、後述の ICCS とのジョイントセッションなどを企画しました。

特別講演としては小児泌尿器科領域のロボット手術の第一人者である米国シカゴ大学の Mohan S. Gundeti 先生に「Robotic Pediatric Urology」と題して、小児泌尿器科領域の形成術を中心にご講演いただきました。日本ではまだ小児に対するロボット手術の経験も少なく、保険適用になっていない現状をなんとか改善したいと強く思うご発表でした。また ICCS の Board member の一人である台湾 Taipei Tzu Chi Hospital の Stephen Shei-Dei Yang 先生に「Practical Urodynamics for Pediatric Urologists」と題して、一般的な外来診療で行える尿流動態検査の解釈の方法も含めて、ICCS の定義に基づきご講演いただきました。

シンポジウム「腹腔鏡手術を始めよう」では、6 人



会長 (筆者) の挨拶



小児泌尿器科学会学術賞・総会賞授賞式



会員懇親会でのテルミンの演奏
(左から2人目が竹内正実先生)



ICCS での討論風景



京小町踊り子隊と
和服姿の5人の外国よりの参加者

の先生にご自分が腹腔鏡手術を開始された際の経験を中心に講演いただきました。これから腹腔鏡手術を始める、あるいはさらに技術を向上しようとしている先生方のために役に立つ内容を多くご発表いただき、非常に参考になったと思います。もう一つのシンポジウムとして「神経因性膀胱治療を考える」と題し、二分脊椎による神経因性膀胱の内科的、外科的治療を討論するとともに、2人の患者さんにご自分の体験をご発表いただきました。患者さんご自身のお話をお聞きする機会は少なく、前向きに病氣に向かい合っておられる姿に感動しました。

初日のウェルカムパーティでは滋賀医科大学弦楽同好会の諸氏による演奏、29日の会員懇親会では竹内正実先生のグループによるテルミンの演奏をお楽しみいただきました。特にテルミンの演奏では本学会の会員の津ヶ谷正行先生が竹内先生のお弟子さんのため、ご一緒に演奏され、感銘を受けました。

6月30日(木)の午後からはICCSが併催となり、まずジョイントセッションとして「Can we avoid incontinence in OAB?」「Bladder and Bowel Dysfunction」を行いました。日本と世界の専門の先生方に最新の研究成果をご発表いただき、積極的な議論がなされました。7月1日(金)～2日(土)の午前まではICCS 2016となり、小児の下部尿路および排便障害の領域の世界最先端の研究が126題と過去のミーティングと比較しても多くご応募いただき、発表されました。実際の発表に際しては、特に外国の専門の先生方がと

ても積極的に討論されていたのが印象的でした。

特別講演として京都大学の岡村 均先生に「Circadian rhythms, vasopressin and diseases」と題してご発表いただきました。夜尿症と日内変動は古くより関連性が報告されており、その根本をなす時計遺伝子についてのご発表で、非常に勉強になるとともに、今後の研究の方向性を考えるうえにも重要な講演だったと思います。また、7月2日(土)午後からはICCSと日本夜尿症学会のジョイントミーティングとなり、そのなかで Legend Lecture として赤司俊二先生に「The impact of a history of childhood nocturnal enuresis on adult nocturia and urgency」、渡辺 決先生に「Water absorption by the urinary bladder—Its implication for the pathogenesis of enuresis—」と題してご講演いただきました。夜尿症研究の大御所で、まだ現役で研究をされている姿を拝見し、尊敬するとともに目標とできるように精進したいという思いを抱きました。

ICCSのウェルカムパーティは、京小町踊り子隊の皆様に着物姿での元気な踊りを踊っていただき、そのなかではICCS 2016の旗を使っでの踊りもあり、盛り上がりました。また、その後、5分で着ることのできる着物「dricco(どりっこ)キモノ」を使っでの着物体験を行い、5人の外国よりの参加者の皆様に着物を体験していただき、1曲踊り子隊と一緒に踊っていただきました。Gala dinnerにおいては、京都府立医科大学6回生の石上真由子さんのバイオリンとピアノによるコンサートを行いました。石上さんは医学生であると同時にバイオリニストとして国際コンクールを含む多くのコンサートで最優秀賞を含む賞を受賞された若手のホープです。素晴らしい演奏を間近で聞くことができ、最後はスタンディングオベーションで終了しました。

以上、第25回小児泌尿器科学会とICCS 2016の概要を報告しました。会員を含む多くの皆様のご協力で成功裏に終了することができましたことを、深く感謝申し上げます。



左より金子一成会長、筆者、Tryggve Nevéus ICCS 理事長

